

小説（日本）



平家物語

（ビギナースクラシックス 日本の古典）

著者不明
角川書店【編】
角川書店 2001 年

推薦者：教員 渡邊史郎

《紹介文》
「平家物語」の世界は実に忙しい世界で、いまなら「加速主義」とか言ってしまうような雰囲気である。「諸行無常」とは抹茶臭い観念ではない。むしろ恨まれたら明日は殺されるかもしれない、というような生活実感であり、それを悲しみの如く語る心理的からくり注目したい。「源氏物語」とはかなり違うが、あきらかに我々の姿がここにもある。

《レポート課題》
気に入ったエピソードを選んで、自由に論じなさい。



響け！ユーフォニアム

北宇治高校吹奏楽へようこそ

武田綾乃【著】
宝島社 2013 年

推薦者：教員 渡邊史郎

《紹介文》
アニメーション化されてヒットしたライトノベル。推薦者も元吹奏族でありトロンボーンやチューバを吹いていたのだが、この小説では主人公の楽器にユーフォニアムを持ってくるところがいいと思う。これがトランペットやフルートであつたら掲示板に悪口を書いてしまいそうである。ありふれた物語だとは思う一方で、こういう小説の魅力についても一考する必要はあると思った次第である。

《レポート課題》
この物語の面白さについて自由に論じなさい。



燃えつきた地図

安部公房【著】
新潮社 1980 年

推薦者：教員 渡邊史郎

《紹介文》
安部公房ははやくから探偵小説の影響を受けているが、この小説はそのパロディともいうべきものである。探偵は失踪者を追って迷路のような都会を歩きまわるのだが、次第に目的も自らも見失ってゆく。しかし物語の最後に平凡で感動的なエピソードが語られる。中年にさしかかった作者の心情を思わせるようでもあるのだが……。

《レポート課題》
自由に論じなさい。



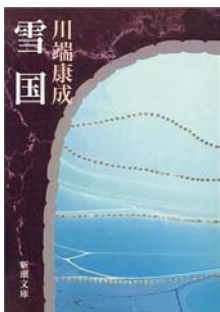
新編 銀河鉄道の夜

宮沢賢治【著】
新潮社 1989 年（改版）

推薦者：教員 金澤忠信

《紹介文》
貧しい少年ジョバンニは、銀河のお祭りの日、母のために牛乳を取りに出かけ、野原でふいに銀河鉄道に乗りこむ。すでに車室にいた親友カムパネルラとの最後の旅が始まる。死を前にして、穢れを知らない孤独な二つの魂が交差する。

《レポート課題》
ジョバンニは何も言えなくなるのが何度もあります。物語の続きとして、ジョバンニの気持ちになって、事件の翌日、カムパネルラの父に、銀河鉄道のことについて話してあげてください。



雪国

川端康成【著】
新潮社 2006 年（改版）

推薦者：教員 松島充

《紹介文》
人間の生の動きが美しい叙述にのせて描かれています。人間の持っている生きることへのそれを突き詰め、美へと昇華させている作品です。ところどころ難解な叙述がありますが、丹念に読み込むことで、その難解さが残酷さと美へと変貌します。人間の生と言葉について深く考えさせられます。

《レポート課題》
人間にとっての「言葉」とは何か。この小説を参考に自由に論じなさい。

小説（日本）



かあちゃん

重松清【著】
講談社 2012 年

推薦者：
副学長・図書館長 吉田秀典

《紹介文》
各章ごとに、多様な家族における母親の姿を、主として、子供の目を通して描いていますが、実は、各章ごとに、話は有機的に繋がっており、色んな側面から「母」を考えることができます。母親といえども、その母親にも親がおり、また、妻としての側面もあり、それが故に、時に毅然として、時に涙もろく振舞う母の姿が印象的です。人への思いやりや優しさを感じられる一冊でしょう。

《レポート課題》
この本を読んで、自身のお母さんについて、自分なりに思いを語ってみてください。その際に、この作品で登場する母親達との類似点、相違点なども交えて下さい。自身のお母さんについて見直す良いチャンスだと思います。



沈黙

遠藤周作【著】
新潮社 2003 年（改版）

推薦者：教員 中島美登子

《紹介文》
江戸時代のキリシタン弾圧のなか、ポルトガル司祭や隠れキリシタンである貧しい農民が神社とは何かを問い苦悩する物語である。宗教とは何か、信仰とは何かということを考えさせられるだけでなく、どのような過酷な状況におかれても他者に寄り添う力を保ち続けられるのか、生きるとは何か等のさまざまな問いを考えさせられる作品である。

《レポート課題》
この作品が問いかける問題の中であなたが最も強く感じた点について自由に論じなさい。



兎の眼

灰谷健次郎【著】
角川書店 1998 年

推薦者：教員 野崎武司

《紹介文》
灰谷健次郎は、教育界に大きな影響を与えた作家の一人です。自ら小学校の教師を経験しています。灰谷は被差別部落の諸問題を扱った数多くの作品を残しています。本書はその端緒となった文壇デビュー作品であり、たちまちミリオンセラーになりました。冒頭にグロテスクな子どもの非業が描かれます。その担任も嘔吐を覚えるほどのものです。気の遠くなるような長い関わりを経て、子どもと教師の両者が再生されるという見事な物語です。

《レポート課題》
（１）学校教育が当たり前のものとして想定している子どもたちの生活世界の一般像はどのようなものか論述しなさい。
（２）異形の生活世界を生きている子どもと、有意義な教育関係を切り結ぶために、教師が配慮しなければいけないことは何か、作品の具体的場面を取り上げながら論述しなさい。



三四郎

夏目漱石【著】
岩波書店 1990 年（改版）

推薦者：教員 神鳥成弘

《紹介文》
熊本の高等学校（旧制）を卒業して東京大学に入学した三四郎は、広田先生をはじめ個性豊かな人々と交流するようになる。物語は大きな展開もなく平々坦々と進んでいくが、いつしか読者である自分も広田先生の家に入り出している一書生のような気がしてくる。漱石の名文にのって、日本の明治末期という時代を感じてみてください。

《レポート課題》
物語は、三四郎がある言葉をつぶやいているところで終わります。その後の展開がどうなるか、自分なりに想像（創造）して、簡単な漱石風の文章にしてみましょう。興味がある方は、「三四郎」→「それから」→「門」と読み進んでみるとよいでしょう。



それから

夏目漱石【著】
岩波書店 1989 年（改版）

推薦者：教員 山下直子

《紹介文》
『それから』は夏目漱石の小説です。漱石の作品は教科書などで読んだことがあるとは思いますが、ぜひ一度、本を手にとってほしいと思います。この作品が新聞に連載されたのは1909年。100年前の明治の世界を想像しながら読んでください。『三四郎』『それから』『門』は三部作とされていますので、『三四郎』も読んでみてください。

《レポート課題》
『それから』の中で、最も印象的な場面あるいは言葉を取りあげ、なぜそれを選んだのかを述べなさい。